

自然遊学館 だより

2015 SPRING

No.75



スッポンの子供

2015年3月21日、近木川河口の調査中に川底を歩いているスッポンを見つけ、タモ網で掬い取りました。甲羅の長さは5センチほどの幼カメで、腹甲には緑色の模様がありました。

2015.5.20 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーレポート

貝塚市の人工島のカタツムリ

…………… 和田太一・山田浩二… 1

*行事レポート

春の七草摘みハイキング …………… 白木江都子… 3

打ち上げ貝拾い …………… 山田浩二… 6

*泉州生きもの情報

ニホンリスの食事の観察

…………… 食野俊男・鈴子勝也・岩崎拓… 7

*館長コーナー

自然遊学館ニュース（春）人気行事と調査活動紹介

…………… 高橋寛幸… 9

*生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの2 …… 鈴子勝也… 14

*調査速報

和泉葛城山昆虫調査 2014 …………… 岩崎拓… 15

千石荘&近木川河口の鳥類調査 …… 鈴子勝也… 18

*特別展報告

特別展「2014年の自然遊学館の出来事」の報告

…………… 岩崎拓… 19

* 寄贈標本 …………… 22

* スタッフ日誌 …………… 24

* お知らせ …………… 25

ネイチャーレポート

貝塚市の人工島のカタツムリ

カタツムリ（陸産貝類）は家の庭先でも見つけることができる身近な生き物の代表ですが、地域ごとの固有種がいたり、環境の条件によって生息している種類が細かく異なっていたりすることから、その地域の自然環境の成り立ちや豊かさを知る指標にもなる大変興味深い生き物でもあります。貝塚市ではこれまでに71種が記録されており、これは大阪府下で記録されているカタツムリの70%が生息している事になるそうです（児嶋 2014）。

筆者たちはこれまでまだ調査が行われていなかった貝塚市の人工島（二色南町）で2015年2月7日にカタツムリ調査を行いました。調査した場所は人工島の二色浜公園の植え込み、二色グラウンド横の遊歩道、中部水みらいセンターの散策路、海岸沿いの松林などで、その結果5種類のカタツムリが記録されました。

ミジンマイマイ科 ミジンマイマイ

Vallonia pulchellula

コハクガイ科 ヒメコハクガイ

Hawaiiia minuscula

イシノシタ科 ノハラノイシノシタ

Helicodiscus (Hebetodiscus) singleyanus inermis

コウラナメクジ科 チャコウラナメクジ

Lehmannia valentiana

オナジマイマイ科 ウスカワマイマイ

Acusta despecta sieboldiana

このうち最も多く見つかったのはミジンマイマイで、名前の通り殻径2mm程度の小さなカタツムリです。ルーペや顕微鏡で拡大して見ると、殻の表面にヒレ状の成長脈が規則正しく並んでいて、殻口は成長すると広がり反転しています（図1）。海岸に近い比較的乾燥した場所で見つかることが多く、人工島ではとくに二色グラウンドに隣接した丘のようになった遊歩道に落ちている石の裏にたくさんの個体が見られました。貝塚市ではこれまでも脇浜戎神社と自然遊学館前の駐車場の植え込みで見つかっています（児嶋 2014）。



図1. ミジンマイマイ（殻径2.1mm）

ノハラノイシノシタ（図2）は北米原産の外来種で、殻径2mm弱の円盤型をしています。そのユニークな名前の通り「野原の石の下」に見つかる小さなカタツムリで、二色グラウンド横の遊歩道で、土に深く埋もれた石の裏から2個体が採集されました。国内では関東、中部、中国・四国地方から記録がありますが（Kano 1996, 黒住・山下 2003, 早瀬 2004, 福田・多々良 2009など）、大阪府では筆者の和田による発見までは記録がなく（和田 準備中）、貝塚市

でも今回の調査で初めて見つかりました。同じ遊歩道のそばで見つかったヒメコハクガイ（図 3）とよく似ていますが、ノハラノイシノシタの方が殻はキラキラしていて、半透明な殻を通して外套に鮮やかなオレンジ色の色素があるのが見えること、殻底から見るとヘソ（巻きを中心に出来た窪み）がやや浅いこと、触角の先端の眼には色素が無い（眼が無いように見える）などの特徴で見分けられます（図 2 矢印）。ヒメコハクガイは各地で草むらや林の石の裏などによく見られる小さなカタツムリで、貝塚市では市街地の民家の庭や南近義神社で記録されています（児嶋 2014）。



図 2. ノハラノイシノシタ（殻径 1.6 mm）



図 3. ヒメコハクガイ（殻径 1.9 mm）

チャコウラナメクジとウスカワマイマイは二色浜公園などで見つかり、どちらも貝塚市では市街地や民家の庭、畑などでよく見られる種類で（児嶋 2014）、寒い冬の間は石の下などでじっとして過ごしていました。

今回見つかった 5 種類のカタツムリは、在来種なのか外来種なのかは見つかった場所や研究者によって意見が分かれる種類もありますが、移動能力の低いカタツムリでは、埋め立て地という新たに造成された場所で見つかる種類の多くは外来種で、埋め立ての造成時に持ち込まれた土砂や公園の植栽などに付いて入ってきたものだろうと考えられます。日本では意図的・非意図的に移入された様々な外来種のカタツムリが見つかっており、大阪府でも最近になって堺市の埋め立て地で地中海沿岸が原産とされるオオクビキレガイ *Rumina decollata* が見つかるなど（石田 2011）、その動向が注目されています。人工的に造成された埋め立て地はそうした外来種が定着しやすい環境であると考えられ、今後も注意して調べておくことが大切です。

謝辞

本稿を書くにあたり、貝塚市のカタツムリの記録について情報をいただきました児嶋 格氏に心からお礼申し上げます。

文献

福田 宏・多々良有紀（2009）徳島県伊島で新たに確認された非海産貝類—特にタナゴジマスメアゴル（新称；腹足綱：有肺目：スメアゴル科）の発見. *Molluscan Diversity*, 2 (1): 11-14.

早瀬善正 (2004) 静岡県で確認したノハラノイシノシタ. かきつばた, 30: 5-7.

石田 惣 (2011) 大阪府堺市の埋め立て地でオオクビキレガイを確認. Nature Study, 57 (2): 6-7.

Kano, Y (1996). A revision of the species previously known as *Hawaiiia minuscula* in Japan and the discovery of the Helicodiscidae, the family new to Japan, The Yuriyagai, 4(1): 39-59.

児嶋 格 (2014). かたつむり展. 貝塚の自然第16号: 79-94.

黒住耐二・山下博由 (2003) 多摩川集水域の現生陸産貝類相, In 黒住耐二 (編) 多摩川水系の貝類からみた自然環境の現状把握と保全に関する研究, (財)とうきゅう環境浄化財団研究助成・学術研究, 31(226):34 - 54. 財団法人 とうきゅう環境浄化財団, 東京.

和田太一 (準備中) 大阪市西淀川区矢倉海岸で見つかった外来種と考えられる陸貝 3 種.

(和田太一 (NPO 法人南港ウェットランドグループ)、山田浩二)

ラコ)」「すずな (カブラ)」「すずしろ (ダイコン)」と元気に答えたのは、一昨年もこの行事に参加してくれたという 9 歳の Y さん、「ごぎょう (ハハコグサ)」だけが思い出せませんでした。昔「ほとけのぎ」と呼ばれていたものが、現在のホトケノザ (シソ科) ではなく、キク科のコオニタビラコだということも覚えてくれていました。ダイコンとカブラ以外の 5 種類の植物を見てもらいながら、よく似ているまぎらわしい植物や、昔と今と呼び名が違う植物などを説明し、実際に七草を摘むときは、田畑の中には入らず、畔道を歩くときには畔を壊さないように気をつけて欲しいとお願いしました。



行事レポート

春の七草摘み

日時：2015 年 1 月 4 日 (日) 10:00~13:00

場所：蕎原ほの字の里周辺

参加者：22 名

雪、雨の正月三日間とはうって変わって、太陽が終始顔を出し、風もなく、時折防寒具を脱ぎたくなるような日和でした。

高橋自然遊学館長の挨拶のあと、さっそく七草の 7 つの植物を知っているかどうか、子どもたちに尋ねてみました。「せり」「なずな」「はこべ」「ほとけのぎ (コオニタビ

ほの字の里の裏の坂道を下ってすぐ前に、原っぱと田んぼ跡があります。数少なくなっているコオニタビラコを探してもらいましたが、最初に見つけたのは小 1 の K さん、とてもうれしそうでした。俗にペンペン草と呼ばれている「ナズナ」の芽生えは、他のキク科の植物とよく似ていて探しにくいのですが、幸い花と実を付けているものが数本あったので、説明するには好都合でした。実の形が三味線のバチの形に似ていることで、タネツケバナとは容易

に見分けがつかますが、子どもたちは残念ながら三味線のバチを知りません。セリは田んぼを覆い尽くすほどの増え方でしたが、ハハコグサはYさんが見つけた1株のみ、ハコベはその場所では見つかりませんでした。

七草ではないのですが、ノビルが集まって生えていて、好物だという人がいたので掘ってみました。まだ球根は小さすぎました。また花の時期にはお目にかからないヒガンバナの濃い緑の葉は、知らない人が多かったようです。



本道に戻って少し歩くと、左手に整備された坂道があり、そこが、今回快く七草摘みを許可して下さった斎喜さんの田畑です。田んぼは道より少し高みにあり、コンクリート擁壁に囲まれていましたので、伸び上がって田んぼを覗いてみると、擁壁に沿ってコオニタビラコがたくさん並んで生えています。イネが枯れたあと、他の植物があまり生えていなかったため、全員が簡単に採集できました。



田んぼの擁壁がコンクリートから土に変わると、フユイチゴがたくさん実をつけていました。子どもたちはもちろん大人も大はしゃぎで、熟し足りない実でもおいしいと、収穫に夢中でした。

自由に畦道を歩いてもらいましたが、一段下の畔にナズナがたくさん生えていて、ここでも花や実をつけていたので、その根元を探って、比較的柔らかそうな葉を選んでもらいました。



この場所での初めてのハハコグサは、Yさんのお母さんが見つけられ、続いて川が一番近い畔でも5~6株見つけ、余裕を持って分け合うことができました。陽射しが暖かいので川のすぐそばを歩くのも心地よく、川の土手に植えてあるカリンの落ちている実をいただいたりもし、蕎原の里山を楽しみました。

「キツネノボタン」は、葉の形も生えている場所も「セリ」とよく似ているけれども有毒だと説明し、実際に見てもらおうつもりでしたが、今年は何故か1本も見つかりませんでした。

目当ての七草を全員がしっかり採集して少し早めにほの字の里に戻り、軽食堂に七草粥の用意が整うのを待つ間に、川村自然遊学館前館長がお土産用に準備して下さった七草セット（1種類ずつ小袋に入れ名前を貼りつけてある）を配りました。

軽食堂では七草粥とお漬物が用意されていたので、スタッフがお椀に取り分けていきましたが、今年の参加者は整然と並んで順番を待ってくださり、おいしい七草粥が一層美味しく感じられ、お鍋はきれいに空っぽになりました。



<行事の時に見つかった植物>

ハコベ・オランダミミナグサ（ナデシコ科）シキミ（シキミ科）ヒメウズ（キンポウゲ科）ナンテン（メギ科）ヒサカキ（ツバキ科）ナズナ・タネツケバナ・イヌガラシ・スカシタゴボウ（アブラナ科）フユイチゴ・カリン（バラ科）カラスノエンドウ（マメ科）セリ（セリ科）テイカカズラ（キョウチクトウ科）ヘクソカズラ（アカネ科）

ホトケノザ・カキドオシ・ヒメオドリコソウ（シソ科）ハハコグサ・チチコグサモドキ・ウラジロチチコグサ・コオニタビラコ・オニタビラコ・ヨモギ・ハルノノゲシ（キク科）ノビル・ジャノヒゲ（ユリ科）ヒガンバナ（ヒガンバナ科）

七草行事に先立ち、湯浅幸子さんと白木は、昨年末の12月27日に下見をしています。1月4日の行事のときに最初に訪れた原っぱと田んぼ跡は、七草のうちの野草5種が揃う貴重な場所で、毎年重宝していたのですが、田んぼで稲を作らなくなると、コオニタビラコが減り始め、溝にしか生えていなかったセリが、年々田んぼの中に侵入し始めていました。下見の時には、コオニタビラコはよく探してやっと見つかる程度で、セリ畑と言っても過言ではない状況でした。何処にでもあるハコベさえ見当たりません。ナズナは観察できる程度に花を咲かせていましたが、もともと少なかったハハコグサも見つからず、人が手を加えなくなった田んぼの変わりように驚きました。

下見を終えて、ほの字の里の南支配人に七草摘みの先行きは不安です、とお話していると、近くに居られた蕎原の斎喜さんに「七草摘みができる場所はないか」と声をかけてくださいました。なんと、斎喜さんは、その足でご自分の田畑の端から端まで案内して下さった上に、七草摘み当日も参加者が立ち入ってもいいし、七草摘みも自由にどうぞと、こともなげに言ってくださったのです。これには湯浅さんも白木も大喜びで、何よりうれしいお土産でした。

齋原の齋喜さん、本当にありがとうございました。
いました。

(白木 江都子)

打ち上げ貝拾い

日時：2015年2月7日(土) 13:00~15:30

場所：近木川河口右岸前浜

参加者：32人

例年にならい、北西風の強く吹く冬場の海辺で「打ち上げ貝拾い」の観察会を行いました。講師に地元の貝を長年調べておられる日本貝類学会会員の児嶋 格さんをお迎えしたほか、ボランティアスタッフの中にも貝にお詳しい方々が多く顔をそろえ、この行事をサポートして頂きました。

近木川右岸の海辺に降り、満潮時の波打ち際に沿って打ち上げ物がたまっているところを中心に貝殻を探していきました(図1)。アサリやホトトギスガイなどが大量に打ち上がっていましたが、参加者に人気のサクラガイも今回は比較的多くありました。

1時間程自由に拾い集めた後、本館の2階で皆が拾った貝を見せてもらい、児嶋講師より種名などについて解説して頂きました。今回拾い集めた貝は海産46種、淡水産2種、陸産6種が記録されました。(表1)。種数的には、ほぼ例年並みでしたが、この場所では珍しい種として、ナガヒメネジガイ(図2)、イセシラガイ、シラトリモドキ(図3)、ナミガイなどが記録されました。特にイセシラガイは軟体の残る新鮮な

死殻でした。また、昨年初記録された触手動物門腕足綱のシャミセンガイ科の一種の殻が今年も1個体採集されました。



図1. 近木川河口で打ち上げ貝を拾う



図2. ナガヒメネジガイ



図3. シラトリモドキ

表1. 観察会で確認した打ち上げのリスト 貝塚市立自然遊学館

| グループ | 和名 | 近木川河口 2015/2/7 32人 |
|------|-----------|--------------------------|
| 腹足綱 | ユキノカサガイ科 | コウダカアオガイ rr |
| | | コモレビコガモガイ rr |
| | ヨメガカサガイ科 | ヨメガカサ rr |
| | | マツバガイ rr |
| | ニシキウズ科 | コシダカガンガラ r |
| | | イシダタミ r |
| | アマオブネガイ科 | イシマキガイ c |
| | カリバカサガイ科 | シマメノウフネガイ c |
| | ムカデガイ科 | オオヘビガイ rr |
| | タカラガイ科 | ハツユキダカラ rr |
| | タマガイ科 | ツメタガイ c |
| | | ハナツメタ rr |
| | | オオネズミガイ rr |
| | イトカケガイ科 | ナガヒメシガイ rr |
| | アッキガイ科 | レイシガイ rr |
| | | イボニシ r |
| | | アカニシ r(L) |
| | フトコロガイ科 | ムギガイ c |
| | ムシロガイ科 | ムシロガイ rr |
| | | アラムシロ c(L) |
| | カラマツガイ科 | カラマツガイ rr |
| | 二枚貝綱 | フネガイ科 |
| | | サルボウガイ c(L) |
| | イガイ科 | ムラサキイガイ r |
| | | ホトギスガイ cc(L) |
| | ハボウキガイ科 | タイラギ rr(L) |
| | ナミマガシワ科 | ナミマガシワ c |
| | イタボガキ科 | マガキ cc(L) |
| | ツキガイ科 | イセシラガイ rr(L) |
| | ザルガイ科 | トリガイ r |
| | バカガイ科 | バカガイ r(L) |
| | チドリマスオ科 | クチバガイ r |
| | ニッコウガイ科 | サクラガイ c |
| | | ヒメシラトリガイ r |
| | | シラトリモドキ rr |
| | | ゴイサギ rr |
| | シオサザナミガイ科 | イソジミ rr(L) |
| | マテガイ科 | マテガイ r |
| | イワホリガイ科 | ウスカラシオツガイ r |
| | フナガタガイ科 | ウネナシマヤガイ rr |
| | マルスダレガイ科 | オニアサリ rr |
| | | カガミガイ c(L) |
| | | アサリ cc(L) |
| | | ウチムラサキ rr |
| | オオノガイ科 | オオノガイ rr |
| | キヌマトイガイ科 | ナミガイ rr |
| 淡水産 | タニシ科 | ヒメタニシ rr |
| | リンゴガイ科 | スクミリンゴガイ cc |
| 陸産 | アズキガイ科 | アズキガイ r |
| | キセルガイ科 | ナミギセル rr |
| | オナジマイマイ科 | ヒメタマゴマイマイ rr |
| | | ウスカワマイマイ r |
| | | クチベニマイマイ rr |
| | | ギョーリキマイマイ rr |
| 甲殻類 | ザリガニ科 | アメリカザリガニ rr |
| | コブシガニ科 | テナガコブシ rr |
| | ガザミ科 | タイワンガザミ rr |
| | | フタバベニツケガニ rr |
| | オウギガニ科 | スベスベオウギガニ rr |
| | モクスガニ科 | モクスガニ r |
| | | タカノケフサイソガニ r |
| | | ヒライソガニ r |
| ウニ類 | サンショウウニ科 | サンショウウニ r |
| | ヒラタフンブク科 | オカメフンブク r |
| 多毛類 | カンザシゴカイ科 | カンザシゴカイ類の棲管 r |
| 腕足類 | シャミセンガイ科 | シャミセンガイ科の一種 rr |
| 計 | | 66 |

凡例：数量 …… cc 多数、c 普通、r 少数、rr ごく少数 生体確認 …… (L)

その後は、自分で拾った貝殻の中から気に入りのものを選んで、思い思いにレイアウトして紙皿に貼っていき、壁飾りの製作を行いました(図4)。貼り付けた貝殻の下には各々に種名ラベルをつけて、採集記念となる作品を完成させました。



図4. 貝殻の壁飾り完成!

(山田 浩二)

泉州生きもの情報

ニホンリスの観察

ニホンリス *Sciurus lis* が生息していることを確認する場面として一番多いのは、松ぼっくりを食べた痕です。でも、なかなか生きた姿を見る機会はありません。自然遊学館には、1995年4月4日に大川でネコに捕獲された冬毛個体の剥製が展示されています(図1; 山口進さん寄贈; 西澤, 2003)。また、2010年9月29日には、木積で死体が拾われています(文野節夫さん寄贈; 本誌, 57号)。いずれも死体の寄贈になります。



図1. 展示している剝製

貝塚市内で松ぼっくりの食痕をよく見る場所は和泉葛城山です。もちろん、食痕の標本と写真はあります。木の枝や幹をささっと走る姿が何回か目撃されていますが、とてもカメラを構える時間はなかったと思います。それに、昆虫、植物、鳥などの別の調査の際に、不意をつかれた機会がほとんどです。

2011年1月から山頂で始めた鳥調査でも、2011年11月29日にアカマツの幹を下る姿をちらっと見ただけでした（食野ほか、2013）。ところが2015年1月20日の調査の際には、出だしから松の実をさかんに食べている姿を撮影することができました（図2）。



図2. 山頂のニホンリス

この枝の上で、1個食べては食痕を落とし、別の実を取りに行行って戻ってきて、同じ場所で食べて、また落とすということを何度も繰り返します。食事しやすい場所だったのででしょう。10分間ほど観察していて、その間に20個程度は食べたと思います。こちらが根負けして、その場所を離れざるを得なくなりました（鳥の調査に来たので）。そのアカマツの樹の下には、ニホンリスの唾液が付いた食痕がいくつも落ちていました。



図3. ニホンリスの唾液付きの松ぼっくりの食痕
（できたてのエビフライ？）

引用文献

- 西澤真樹子（2003） 貝塚市の両生類・爬虫類・哺乳類. 『貝塚の自然－貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号－』. pp. 196-215.
- 食野俊男・鈴子勝也・岩崎拓（2013） 和泉葛城山の鳥類調査（2011年～2012年）. 貝塚の自然第15号：30-40.

（食野 俊男・鈴子 勝也・岩崎 拓）

館長コーナー

自然遊学館ニュース（春） 人気行事と調査活動紹介

平成5年の秋、貝塚の自然を紹介する施設として生まれた当館は、開館当初から貝塚の自然の中で生きる『生きもの』情報を収集し、発信し続けてきました。

そして現在『生きものだいすき』を育成し、一緒に貝塚の美しい自然を守っていかう」と活動しています。

人気行事紹介

1. 春の人気行事『渚のいきもの』



『渚の生きもの』① 20130525
生きもの探し活動の様子

近木川河口の生きものを探し、網で捕獲します（上写真）。捕れたものはまとめて講師の先生から解説を受けます（下写真）。



『渚の生きもの』② 20130525
捕れた生きものの解説の様子

この後、地曳網体験があります。

2. 秋の人気行事『近木川のアユ調べ』

「近木川にアユが泳ぐ？」と言われてアユ調べを始め、今年度で4年目になります。

最初の年はアユがいることは確認できていたのですが、行事の日にはアユを見ることができず、がっかりのスタートでした。

しかし、2年目は驚くほどアユが捕れ、参加者から歓声が上がりました。



近木川のアユ調べ① 20130922
アユを一生懸命探し、捕ろうとする参加者



近木川のアユ調べ② 20130922
アユ等の捕れた川の生きものの解説を聞く参加者

3. 冬の名物行事『バードウォッチング』

千石荘と近木川河口でのバードウォッチング（冬鳥観察）は午前と午後に分かれて行います。



バードウォッチング千石荘 20140222
講師先生の解説を聞く参加者

午前の部は千石荘をぐるっと回った後、講師の先生から観察できた鳥のまとめを聞きます。参加者が知っている鳥、知らなかった鳥があり、熱心に聞き入ります。

過去に「今日は、珍しくオオタカが見られましたね。」「カワセミが見られてラッキーでしたね。」という日もありました。

午後の部は場所を移して近木川河口の鳥を観察します。近木川河口では海と河口に冬鳥がたくさん見られます。



バードウォッチング近木川河口 20140222

最後は午前の部と同じように講師先生のまとめを聞き、見ることができた鳥の確認をします。

調査活動紹介

1. 千石荘の植物調査

千石荘は、植物が多く繁茂している場所です。昔から鳥や昆虫など貴重な自然が多く存在した場所で、地域の人たちの憩いの場所でもあったそうです。その千石荘で植物の調査を行っています。

これは植物を一つずつ確認していく作業です。



千石荘の植物調査① 20130530



千石荘の植物調査② 20130530

写真のように1種ずつ立ち止まり、用水路の中や道端の草をしゃがんで覗き込みながらの観察です。スズメバチやマムシに注意しながらの観察です。

この調査は一度に調査できる範囲が限られているので、全体を調べ終えるにはまだまだかかりそうです。

この調査とは別に樹高調査や昆虫調査、鳥調査も必要に応じて行っています。どの調査も調査対象は膨大な量になるので、よほどの体力と注意力が無いと労力だけが増え、疲れ切ってしまう作業です。「体力自慢集まれ！一緒に調べませんか？」と応援要請の声をかけたいくらいです。

2. 近木川の生きもの調査

ハクセンシオマネキ調査

この調査も根気のいる調査です。ハクセンシオマネキが巣穴から出てくるのをじっと待ち、その数を数えます。初夏の時期は蚊や暑さとの戦いもあり調査は大変苦勞します。



ハクセンシオマネキ調査 20130710

3. 汽水ワンド魚類・水底生物調査

「魚釣りは楽しい川遊びだし、水遊びと同じで、夏の暑い時期には是非やってみたいな。」という人がいるかもしれません。しかし、冬の寒い日の調査を考えてみてください。気温2度。水に入り魚調査。想像しただけでぞくっとしませんか？



汽水ワンド魚類調査 20130629
投網を打ち魚調べ



汽水ワンド水底の生きもの調査 20130629
網を使って水底をすくいながらの調査

4. 汽水ワンド昆虫調査

木や草を一つずつ調べ、どんな昆虫がいるか記録していきます。草むら、丘の斜面を調べます。斜面では足元に注意しないとすべり落ちることもあります。



汽水ワンド昆虫調査 20130823
丘の斜面を登りながら昆虫調査

汽水ワンド調査は1年間を通し、毎月行います。尚、植物調査も、昆虫調査と同時に進行されています

5. 調査についての疑問

「雨が降って行事が中止になったらどうするの？」こんな質問が聞こえてきました。答えは、「中止になっても現地での観察は行っています。」です。

昨年度の千石荘と近木川河口のバードウォッチング行事は雨の為中止になりました。しかし、中止決定の後、徐々に雨脚も弱くなりました。やがて、曇り空になったため、行事としてではなく、調査として、行いました。千石荘では調査同行を希望する方がおられたので一緒に鳥調査を行いました。

午後には更に天候が回復したので、近木川河口の鳥調査も行いました。この時も同行希望の方がおられたので、一緒に調査しました。

鳥調査は人数が多すぎると鳥が警戒してしまい困りますが、少ないとさびしいものです。その点、同行者がいたので元気が出た調査でした。同行調査していただいた皆様、ありがとうございました。



千石荘鳥調査 20150222

館内紹介

では、入口からお入りください。



貝塚市立自然遊学館入口

もう何度もお話ししているのによくお分かりの方も多いと思いますが、少しお付き合いください。

当館が年月をかけて収集した標本や展示物は館の入口から展示されています。入り口から奥に進み中央展示室に入るとクジラとスナメリの骨の標本、市内に住む動物の標本が展示されています。

また、更に奥の方に進むと水に棲む生きものの飼育水槽やその他の生きものの飼育箱が並んでいます。



中央展示室の様子 20150424

アカウミガメ剥製が消えた？

いつも入口の大阪湾水槽の上にあったアカウミガメ剥製がなくなっています。「珍しい物ですから誰かが・・・？」と言う声が聞こえそうですが、大きくて重い物なので移動するのも大変です。実は、2015年4月9日（木）当館のアカウミガメ剥製が、海遊館で展示されることになり出かけていったからでした。



アカウミガメ剥製が消えた？ 20150409
海遊館へ出向中を知らせるアカウミガメ剥製？

上の写真は、剥製の代わりにアカウミガメ（手作りの布で作られたアカウミガメ）の模型です。



現在の入口の展示の様子 20150424
水槽上のアカウミガメ剥製(?)に注目

アカウミガメ出向の経緯を簡単に紹介します。海遊館が『琵琶湖・淀川・大阪湾～水のつながりと生きものたち～』という企画展の展示品として、当館のアカウミガメ剥製借用を依頼して来たのは2015年3月でした。アカウミガメ剥製の活躍は当館の活躍でもあるため、快く貸し出しを受け入れました。そして、4月9日に搬出された次第です。海遊館の職員の方の手により、丁寧に運搬専用車両に積み込まれました。



アカウミガメ剥製積み出し 20150409

搬送中に傷んだり破損したりしないように入念に梱包作業が行われました。当館職員が心配そうに見守る中作業は順調に進み、無事海遊館に運ばれました。

尚、出向期間は1年間です。来年2016年4月末まで、海遊館で頑張ってください。応援よろしくお願いします。

生きものだいすき集まれ

前出の千石荘調査や汽水ワンド調査等、貝塚の自然調査を一緒にしませんか。生きものだいすきが条件になります。生きものだいすきの方、自然遊学館の活動支援を試みませんか？

新規講座紹介

今年度から『千石荘昆虫調査』と『生きもの切り絵講座』を、新規開講しました。

『千石荘昆虫調査』は毎月第2金曜日、

『生きもの切り絵講座』は毎週日曜日です。受講を希望される方は参加者氏名と希望日を電話にてお知らせ下さいませと、予約完了となります。

遊学館の館報第1号発行のお礼

館報を2013年(平成25年)度分から発行することになったことは前号で既にお知らせしました。今回、当館の出来事や行事など一年間の思い出を綴った文集として、第1号を発行することができたことは当館を応援していただいた皆様のおかげと深く感謝いたしております。

皆様の更なるご支援とご理解・ご協力が、当館がますます発展する原動力になります。今後とも皆様から熱いご声援をいただけますよう職員一同頑張っております。よろしく申し上げます。

尚、館報第1号は市民の方にはお届けしておりませんが、お手元に置き、読んでみようかなと思われる方は自然遊学館事務室までお越し下さい。

(高橋 寛幸)

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの2

貝塚市立自然遊学館の水槽のメンテナンス作業などを担当している、鈴子勝也で

す。今年も寒い日が続き、水槽掃除は、冷たい水の中に手をつけてガラスを磨いたり、水槽を外に持って行って洗うので、冬は大変な季節です。(; >_<)

今回は、自然遊学館の入口を入ってすぐの場所にある、大きい方の海水水槽を紹介したいと思います。

海水水槽の中に飼育している生きものには、寄贈していただいたものと行事や調査などで採集したのがあります。

寄贈されたものは、釣りをしている「この魚何かな?」と持って来ていただくことが多いです。ほかに河口や浜辺付近で、見つけた生きものを持って来ていただくこともあります。行事や調査では、地曳き網や投網などを使い採集しています。

海水水槽の中で、一番多く飼育している生きものは、メジナとクロダイです。メジナは、大阪湾でよく釣られている魚で、大阪ではグレと名で親しまれています。稚魚の時は磯の潮だまりでよく見られることがあります。海藻類や小動物などを食べている雑食性の魚です。



メジナ (グレ)

クロダイも大阪湾でよく釣られる魚で、大阪ではチヌという名で親しまれています。稚魚の時は河口付近や藻場などで見ら

れることがあります。食べているものはエビ・カニ類、小魚などのほかにアオノリなどの海藻です。



クロダイ (チヌ)

今後も新しい生きものを展示できるように努力したいと思います。

(鈴子 勝也)

調査速報

和泉葛城山昆虫調査 2014

2014年も和泉葛城山の山頂付近で4月から12月までの各月に1回ずつ3時間程度の昆虫調査(ルートセンサス・任意調査)を行いました。その結果、および2008年以降の結果との比較を以下に記します。

1. 大阪府レッドリスト種

2014年の調査では、大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているテングオオヨコバイ(図1)、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキ(図2)、ハルゼミ、エゾゼミ、ホソバセセリを確認しました。ハルゼミとエゾゼミは鳴き声による確認です。

2000年に発行された大阪府レッドリストは2014年に改訂され、テングオオヨコバイは準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類へランクアップされ、ハルゼミとホソバセセリはランク外から準絶滅危惧に入りました。それぞれ大阪府で絶滅の危険が高まっていると判断されたようです。



図1. テングオオヨコバイ
(カメムシ目ヨコバイ科、2014. 7. 1)



図2. ヒトコブササキリモドキ
(バッタ目ササキリモドキ科、2014. 8. 5)
左がメス成虫、右がオス成虫です

ただ、ヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミは定期的な調査を始めた2008年から毎年、それなりの数は確認されているので、今すぐ和泉葛城山で絶滅しそうという状況にはありません。ホソバセセリも2011年以降連続して確認されています。テ

ングオオヨコバイは蕎原の春日橋付近から山頂まで分布していて、例えばヨコバイ科の中で特別に減っているという印象はありません。

2008年に山頂付近で確認され、私的注目種に挙げていたカヤコオロギは、それ以降まったく確認されていません。2014年の改訂でランク外からいきなり絶滅危惧Ⅰ類へ入りました。大阪府で絶滅の危機が高まっているのかもしれませんが。山頂付近のカヤコオロギは分布の中心が和歌山側の草原で、展望台付近は分布の北端になります。

2. 私的注目種

これは暫定的なものです。山地性で貝塚市内での分布が山頂付近にほぼ限られるものなどからリストアップしていこうと思います。

2014年調査で確認されたものは、チビクチキウマ、ヒメクサキリ、ニホントビナナフシ、エゾハサミムシ、ツノアオカメムシ(図3)、エゾアオカメムシ(図4)、トゲカメムシ、ツマジロカメムシ、トホシカメムシ(図5)、ヒオドシチョウ、アサギマダラ、シダクロスズメバチです。



図3. ツノアオカメムシ
(カメムシ目カメムシ科、2014. 8. 5)



図4. エゾアオカメムシ
(カメムシ目カメムシ科、2014. 10. 9)



図5. トホシカメムシ
(カメムシ目カメムシ科、2014. 10. 9)

この中では、ツノアオカメムシの4年ぶりの記録がもっとも久々のものです。注目種のうち長期間記録のないものは、ハスジゾウムシが6年、ヨツボシカメムシとオオマルハナバチが4年間記録なしです。

3. 標本がなかった種

自然遊学館に標本がなく初めて採集された種のうち、セコブナガキマワリ(図6)、ナミスジキヒメハマキ(図7)、ヒロオビエダシャク(図8)の写真を示しました。他の種は、次頁のリストをご覧ください。



図6. セコブナガキマワリ
(コウチュウ目ゴミムシダマシ科、2014. 8. 5)



図7. ナミスジキヒメハマキ
(チョウ目ハマキガ科、2014. 7. 1)



図8. ヒロオビエダシャク
(チョウ目シャクガ科、2014. 9. 9)

最後に、紹介した種の確認日(2014年の月/日)を示しました。日付の後の「*」印は幼虫での確認を示し、無印は成虫での確認です。

大阪府レッドリスト種

- テングオオヨコバイ 7/1
- ヒトコブササキリモドキ 8/5
- ハルゼミ 5/7、6/10、7/1、8/5
- エゾゼミ 9/9
- ホソバセセリ 8/5

私的注目種

- チビクチキウマ 10/9
- ヒメクサキリ 8/5*、9/9*、10/9
- ニホントビナナフシ 8/5、9/9
- エゾハサミムシ 6/10*
- ツノアオカメムシ 8/5
- エゾアオカメムシ 10/9
- トゲカメムシ 10/9
- ツマジロカメムシ 11/6
- トホシカメムシ 10/9、11/6
- ヒオドシチョウ 4/8
- アサギマダラ 6/10
- シダクロスズメバチ 5/7

標本がなかった種

- カバイロチャタテ 7/1
- シロオビナカボソタマムシ 5/7
- セコブナガキマワリ 8/5
- シリナガカミキリモドキ 8/5
- イタヤハムシ 8/5、9/9
- キアシハラナガハナアブ 6/10
- シロスジナガハナアブ 8/5
- オオヒゲナガハナアブ 9/9
- トビサルハムシ 7/1
- ナミスジキヒメハマキ 7/1
- ヒロオビエダシャク 9/9
- シリアゲコバチ 8/5
- クロクサアリ 9/9

(岩崎 拓)

千石荘 & 近木川河口の鳥類調査

日時:2015年2月22日(日) 10:00~15:30

場所:貝塚市千石荘、近木川河口

バードウォッチング行事の予定でしたが、雨が降りそうな天気だったので、自主的に来られた方と調査を行いました。

朝からは、千石荘の下原池を集合地点として、そこから調査を始めました。下原池では、アオサギ、ダイサギなど、サギ類が確認できました。他にカイツブリ、ジョウビタキ(図1) やツグミなどの鳥を見ることができました。



ジョウビタキ

(貝塚市千石荘、2015年2月22日)

少し歩いて行くと、シジュウカラやヤマガラやアオジなどが姿を見せてくれました。鳴き声では、ウグイス、ホオジロのさえずりを聴くことができました。

カンコ池の近くで、エナガとシジュウカラとヤマガラの群れに遭遇することができました。カンコ池では、毎年、見られるササゴイを今年も見つけることができました。その少し横には、色の鮮やかなカワセミがいました。池ではキンクロハジロやバンやオオバンなども確認できました。

引き返し林の中を進みましたが、そこではあまり鳥を観察することができませんでした。ポタン池を過ぎると田畑が広がっており、空を見るとトビとノスリが飛んでいました。林縁では、カシダラダカ、カラヒワ、田畑では、ケリ、ツグミ、イソヒヨドリ、モズなども確認することができました。最後に千石荘のロータリーで、姿は見られなかったのですが声だけ、ベニマシコの声が聴くことができました。

午後からは、場所を移動し、自然遊学館~近木川河口を観察しました。河口付近では、カンムリカイツブリ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモなどを確認することができました。汽水ワンド付近では、カルガモとコガモなどとアオサギやコサギを確認することができました。臨海線を進むと川の中州にヨシが多く生えており、ゴイサギやカワセミなどを確認することができました。和田太一さんによると、カワセミ(図2)は中州のヨシ群落の中に繁殖の可能性があるそうです。



カワセミ

(近木川河口、2015年2月22日)

永久橋の近くでは、ヒヨドリ、ムクドリ、ハクセキレイなどが、川の緩やかな場所で

水浴びをしている姿を見ることができました。

最後、二色の浜側のヨシ原で、オオジュリン（図3）の姿も確認することができ、これまでのバードウォッチングの中で、一番多く種数を確認することができました。行事としてできなかったのが残念だったのですが、来年度も今年以上にさまざまな野鳥を観察できればいいなと思います。



オオジュリン
(近木川河口、2015年2月22日)

千石荘で確認された鳥類（35種）
キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ササゴイ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、ケリ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ(声のみ)、ホオジロ、カシラダカ、アオジ

近木川河口で確認された鳥類（37種）
ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガ

モ、スズガモ、ホシハジロ、カンムリカイツブリ、キジバト、ドバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、シロチドリ、イソシギ、ハマシギ、セグロカモメ、トビ、カワセミ、モズ(声のみ)、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン

(鈴子 勝也)

特別展レポート

特別展「2014年の自然遊学館の出来事」の報告

場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2015年3月1日～3月30日

1年間に記録した貝塚市の自然や自然遊学館の出来事を写真や標本で振り返る特別展は、「2011年の出来事展」から始まり、今回で4回目になりました。1年ごとに記録を振り返ることで、来館者への紹介のほかにも、次に勤める新職員に整理した記録を伝えるという意味でも、良い企画だと思います。

今回は、写真と標本のほかにも、紹介しきれなかった写真を大型モニターにスライドショー形式で映しました。それらの中から、自分が印象に残ったものをいくつか紹介したいと思います。

オレンジ色のぶよぶよの物質は何？



フザリウムかな（？）
(蕎原 2014. 2. 13)

近木川上流に向かう途中、左岸の作業道脇のモウソウチクの切り株に、オレンジ色のぶよぶよした物質が付着しているを見つけました。最初、ゴムのような人工物を疑いましたが、柔らかさは生きもののようです。いろいろ調べてみて、切り株から湧き出た栄養分にフザリウム *Fusarium* の仲間（カビ菌）が発生したものと推測しました。でも、まだはっきりとは分かっていません。

忍者になったウシガエル



ウシガエル
(館内飼育展示 2014. 4. 7)

飼育しているウシガエルが、なぜか花瓶に挿した枝に登るようになりました。

数日後、朝、「ウシガエルがいない」と慌てて探すことに。特定外来生物を近畿環境事務所から許可を得て飼育しているので、脱走したら大変です。でも、数分後、飼育ケースの天井裏のような場所から顔だけ出して、じろっこつちを見ているウシガエルとにらめっこすることになりました。

手乗りナニワトンボ



ナニワトンボ
(千石荘 2014. 9. 16)

2014年の大阪府レッドリストの改訂で、ナニワトンボは準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類に「昇格してしまいました」。府内の水辺環境が悪化したことを反映したものだと思います。

2014年の千石荘調査では、8月と9月に確認できました。その9月の調査で、オス成虫を撮影していると、左手に乗ってきました。種小名の *gracile* は、か細いという意味で、その小ささが伝わる写真になったと思います。

ハサミムシは臆病者？



オオハサミムシ
(二色の浜産 2014. 9. 26)

オオハサミムシのオス成虫の尾鉈は大きく頑丈です。腹部をそらせたポーズもなかなかかっこいいです。餌を採るときにどんな使い方をするのか見てみました。すると、外見とは違って、すごく「弱気」なことが分かりました。

3日間絶食させたのに、餌を前にして逃げ回ります。雑食者であるハサミムシは、無理して生きて餌を採らなくても、浜に打ち上げられた動植物の死骸を食べ続けるという手もあることと関係があるのかもしれませんが。

甲羅は花崗岩に似る？



ニホンイシガメと花崗岩
(三ツ松大橋 2014. 10. 3)

木島小の近木川現地学習で採集されたイシガメです。甲羅の泥を落とすと地肌が見え、それが花崗岩に似ていることに気がきました。近木川の中流には花崗岩帯があり、河原にも花崗岩が落ちています。その主成分は、石英、長石、黒雲母で、黒雲母の鉄分が酸化して茶色っぽくなることがあります。その鉄分が酸化した感じまでイシガメの甲羅が似ていたのです。近木川中流域独特の適応だったら面白いと妄想がふくらみました。

テングタケの天狗の鼻



テングタケ
(水間公園 2014. 11. 4)

撮影した時は気づきませんでした。家に帰って、焼酎を飲んで酔っ払いながらパソコンのモニター上で画像を見ると、天狗の面の鼻をつまんでいるように見えてきました。テングタケという名前は、立派な柄を天狗の鼻に見立てた命名だったんですね。真偽のほどは保証しませんが。

不気味な黒いカタツムリ



ウスカワマイマイ
(脇浜 2014.11.15)

脇浜にお住まいの方から「近所で採れたカタツムリの名前を知りたい」と依頼がありました。自然遊学館の展示標本と比較すると、ウスカワマイマイに似ていますが、殻と軟体部の色が違い、薄黄色のウスカワマイマイより殻が厚いようです。変な外来種の可能性も考えられました。結局、神戸植物防疫所の方に標本を見てもらい、ウスカワマイマイということになりました。外国の文献を当たると、メラニン色素の生成と病原菌に対する耐性の両方に関係する酵素があるようで、この黒いウスカワマイマイは、病原菌に対する耐性が高いのかもしれない。

展示物の仕様や一覧など、今回の特展報告のまじめバージョンは、館報にゆずります。

(岩崎 拓)

 寄贈標本

< 鉱物 >

- ◆ 戎下秀史さんより
イシマテガイが穿孔した石灰岩
和歌山市大川 2015年2月8日採集

< 哺乳類 >

- ◆ 廣野光子さんより
哺乳類の一種の骨 1点
貝塚市近木川河口 2015年2月7日採集

< 鳥類 >

- ◆ 食野俊男さんより
スズメ 死体1点
貝塚市近木 2015年2月4日採集
- ◆ 川さきゆう、おく野まや、ぬまたいお、ささ木ふうなさんより
ヒヨドリ 死体1点
貝塚市二色 2015年2月5日採集
- ◆ 二色海浜緑地公園事務所より
トビ 衰弱個体1点
貝塚人工島 2015年3月9日採集



※ はく製にしようとして持ち帰りましたが、徐々に回復し、元気になって3日後に飛び立ちました。

<爬虫類>

◆廣野光子さんより

カメ類の卵 1点

貝塚市近木川河口 2015年2月7日採集

<魚類>

◆三俣二生さんより

タケノコメバル 生体1点

貝塚人工島 2015年1月19日採集

ムラソイ 生体1点

貝塚人工島 2015年1月21日採集

ムラソイ 生体1点

貝塚人工島 2015年2月16日採集

ムラソイ 生体2点

貝塚人工島 2015年3月4日採集

ドロメ 生体1点

ムラソイ 生体1点

貝塚人工島 2015年3月13日採集

◆西出康介さんより

クサフグ 生体1点

貝塚市近木川河口 2015年3月22日採集

<軟体動物>

◆和田太一さんより

ノハラシノシタ 3点

高槻市鶴殿 2014年12月30日採集

カワラサナギガイモドキ 10点

オカモノアラガイ科の一種 3点

大阪市西淀川区矢倉海岸

2015年1月17日採集

◆中原光規さんより

ヤスリヒザラガイ 生体1点

インダタミ 生体1点

タマキビ 生体2点

泉南市りんくう南浜

2015年3月8日採集

◆鈴木司郎さんより

ミジンマイマイ 殻2点

貝塚市脇浜 2015年3月16日採集

◆三宅壽一さんより

イイダコ 生体2点

阪南市西鳥取漁港地先

2015年3月26日採集



<刺胞動物>

◆西出康介さんより

カミクラゲ 生体1点

貝塚市二色の浜 2015年3月22日採集

<棘皮動物>

◆渡邊悠斗・畠山太一さんより

イトマキヒトデ 生体1点

貝塚市近木川河口 2015年3月26日採集

<節足動物>

◆平野智哉、松永昇吾さんより

フタバベニツケガニ 生体1点

テッポウエビ 生体1点

貝塚市二色の浜 2015年2月14日採集

◆中原光規さんより

イソカニダマシ 生体1点

イソガニ 生体4点

ヨモギホンヤドカリ 生体3点

泉南市りんくう南浜
2015年3月8日採集

2015年2月23日 撮影

<昆虫>

- ◆濱谷巖さんより
メイガ科の一種 幼虫1点
(ロウバイの実の中にいたもの)
岸和田市別所町 2014年12月31日採集
- ◆春沢圭太郎さんより
20種76個体
和泉葛城山山頂付近
(岸和田市側：標高850m)
2014年11月20日～21日採集



※ 後日、大阪市立自然史博物館が標本として持ち帰りました。

<寄贈写真>

- ◆濱谷巖さんより
メイガ科の一種 幼虫1点
岸和田市別所町 2014年12月31日撮影
- ◆食野俊男さんより
ニホンリス 1点
和泉葛城山山頂 2015年1月20日撮影
ビンズイ 5点
二色の浜 2015年3月28日撮影
- ◆鈴子佐幸さんより
ジョウビタキ 5点
貝塚市二色 2015年2月7日撮影
- ◆和田太一さんより
ウソ 3点
和泉葛城山山頂 2015年3月10日撮影
- ◆綿井良輔さんより
コツノキンセンモドキ 3点
熊野灘産 2015年3月21日撮影
- ◆ Brian Aspin さんより
スナメリのストランディング
泉南市りんくう南浜

スタッフ日誌

1月18日、鳥類剥製コーナーにある貝塚市鳥類リストを作り直しました。これまで展示していたリストは、2007年に作成したもので、当時の確認種数は177種でした。17年半もほったらかしにすると、当時は思いもしませんでした。ずぼらなことですみません。以降、本誌でも紹介してきたように、市民の方々からの情報や標本の寄贈によって、190種まで増えています。(岩)

2月5日、二色小学校の出前授業に行ってきました。6年生のキャリア教育という時間で、普段話す機会の多い生きもの関係の話ではなく、どうして職業として博物館学芸員を選んだのかということを経験を通して話すという内容です。何か気恥ずかしいような緊張感を味あわせてもらいました。(；・_・) (浩)

2月12日、阪南市の小学校理科部会の先生が来られて、海の生きものに関しては、泉

州の海岸生物や、昨年泉南市に上陸産卵したウミガメの話、昆虫に関しては、ナミアゲハとオオカマキリを例に、昆虫の見方を話しました。(浩・岩)

2月19日、海水の90cm水槽を2個乗せている水槽台がかなり錆びてきていたので、新しくステンレス製のものを発注していたものが届きました。水槽台の入れ替えには、かなり労力がかかりましたが、年々、懸案度が増してきていた重たい水槽を支える台の経年劣化問題が解消され、ひと安心です。(浩・鈴・寺)

3月6日、二色の浜公園管理事務所が二色小学校6年生、約70名と一緒に松に巻いたコモを外してどんな生きものがあるのかを調べる授業に参加しました。昨年と同じくメガネヤチグモが一番多く、昆虫では、クビキリギス、ラクダムシ幼虫、ハスモンヨトウ幼虫などが採集されました。(岩)

3月9日、この日朝一の仕事は、どういう訳かユーチューブに流れるダンス(とはとても言えないが...)の撮影。道路交通課の呼びかけに応じ、貝塚市をPRする一環のため、こういう流れになりました。AKB48の「心のプラカード」曲に合わせて、体をくねらせるスタッフ達でありました。(一同)

お知らせ

「貝塚の自然第16号」発行!

自然遊学館の2012年度の年次活動報告

書「貝塚の自然 第16号」が発行されました。自然遊学館のほか、貝塚市立図書館でも閲覧可能です。また、自然遊学館ホームページ(<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/index.html>)の中で、調査研究の報告に関しては年次報告書のページ、特別展の報告に関しては過去の特別展のページにおいて、pdfファイルとして閲覧可能です。

自然遊学館

公式フェイスブックページ公開

3月26日、貝塚市立自然遊学館公式フェイスブックページが公開になりました

(<https://www.facebook.com/sizenyugakukan>)。貝塚市の自然情報や、自然遊学館の行事報告、展示、調査、日々の出来事などを発信していきます。自然遊学館ホームページともども宜しくお願い致します。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2015 春号 (No. 75)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2015. 5. 20

この小冊子は市内印刷で作成しています。